



# 校長室だより2

黒部市立村椿小学校  
文責：校長 寺島紀子  
令和7年12月19日  
第28号

## 体験から生まれた思い…言葉の力を感じるとき

### ★計算大会の感想インタビューより

去る12日（金）は今年度第2回目の校長杯計算大会（たし算の部）でした。子供たちも大人もそれぞれの自己最高記録を目指して、またライバルと正々堂々競い合おうと、ベストを尽くして頑張っていました。

結果の総括は19日（金）のひき算の部と合わせて次号で紹介しますが、今号で取り上げるのは、12日のたし算の結果発表の際のインタビューです。

195点で全校1位の6年Yさんは、校内では「計算の絶対王者」とも言える存在ですが、前回のひき算では2位との差がごくわずかの接戦でした。だからでしょうか、マイクを向けると、「前回は練習をしていなかったのですが、今回は練習をして臨みました。よい結果が出てよかったです」と、心から嬉しそうに話してくれました。王者の座に慢心せずに、地道に練習を積んだという点になるほどと感心しました。

またオープン参加でYさんを上回る220点をたたき出した久保先生は、「事前に教室で4年生と一緒に何回か練習しました。しっかり練習したのがよかったです。また、早寝早起きしてしっかりご飯を食べる、体調を整えて元気でいるのも大事です」と話していました。何よりも健康第一！確かにそうですよね。子供たちにとっての憧れ、目標、乗り越えたい壁となって立つ久保先生の言葉は、きっと子供たちの心に響いていると思います。

さて、今回全校で一番の「のびたで賞」は4年のRさんでした。前回の自己ベストよりもさらに60点もアップの120点でした。朝の時間等と共に練習に励んだ仲良しのHさんと並んでインタビューに応じてくれました。「毎日練習したよ。練習の時の方がもっといい点数だったくらい。本番は夢中だった。いい結果になって楽しい気持ちです」と話してくれました。「夢中」というのがいいなあと思いました。練習した成果を出そうと集中して臨んだ2分間だったのでしょうね。



何気ない言葉の中に、それぞれの体験から生まれた思いが詰まっています。言葉の力を感じます。

### ★「あったか言葉」がたくさんたくさん集まりました

15日(月)の人権集会は、全校児童が人権について考える場となるようにと計画委員会の子供たちが企画してくれました。劇仕立てのクイズも面白かったのですが、いつも取り組んでいる「あったか言葉」の紹介もなかなか味わい深いものでした。「～してくれてありがとう」「～が上手だね」「すごいね」「ぼくも見習いたいな」…。周りの友達のちょっとした言動等を捉えて「あったか言葉でメッセージを送る[贈る]、その心がとても尊いと思います。

自分のことをこんなふうに見ていてくれる人がいる、こんなふうに思ってくれている人がいる。人はそれだけで、勇気が湧いてくるのではないでしょうか。

児童玄関前ホールの専用掲示板には、あったかアクションの木にあったか言葉のカードが所狭しと重なり合って掲示されています。ふんわりと満開に咲く花のようであり、またそよそよ揺らぐ葉っぱのようでもあり、美しい「言の葉」です。

### ★今年の名言をいろいろ紹介します

余談ですが、年間300以上の名言を集める「伝え方研究所」選出の『今年の名言グランプリ2025』トップ3を紹介します。「なるほど」と思うものばかりです。

第1位「好奇心の扉だけは、常に開けておいた方がいい」黒柳徹子 ※なりたいものを探す人へのアドバイス  
第2位「誰かを許すのはその人のためじゃない。許せない相手に自分の人生を支配させないためだ」

旅人KADさん ※旅先で出会ったドイツ人にもらった言葉

第3位「生きていく上で、不完全だから進もうと思う」イチロー（元プロ野球選手）

※アメリカ野球殿堂入り選出後の会見で（満票に1票だけ足りなかったことを受けて）

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしています！  
校長室だよりへの感想・学校へのご意見もお願いします 切り取り できればお名前or児童名( )

## 「地域に学ぶ研修会」を行いました

18日（木）、コミュニティスクールの取組として、ふるさとキャリア学習「地域に学ぶ研修会」を行いました。4～6年生児童と教職員、そして学校運営協議会の委員の皆さんにも参加していただきました。

今年度の講師は、荒俣地区松枯対策協議会事務局長の篇原信行さんでした。荒俣海岸に広がるクロマツ林が10年以上前から虫害により枯れてしまっていることと、その対策のためにさまざまな対策に取り組んだり、新たな植樹と保全活動を続けたりしていることなどを、分かりやすくお話ししていただきました。

4・5年生は先月14日（金）の「第19回新川森林祭」でクロマツの植樹に参加しています。そうした体験と結び付け、興味深く感じながら話に聞き入る姿が見られました。

感想タイムでも進んで挙手する子がたくさんいました。

地域について子供と大人が共に学習するよい機会となりました。篇原先生、どうもありがとうございました。



11/14 新川森林祭での植樹活動  
(荒俣海岸付近)



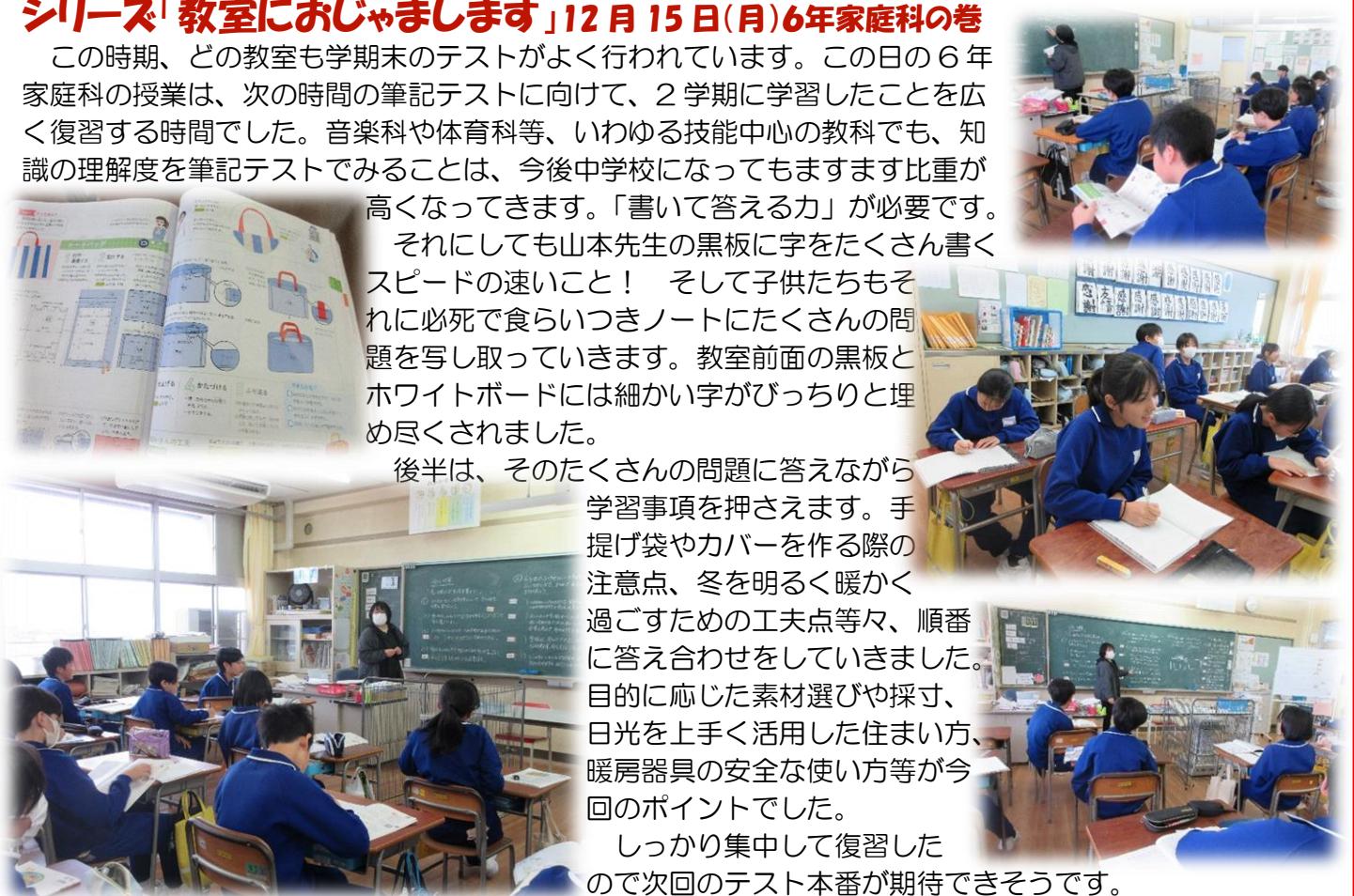
## シリーズ「教室におじゃまします」12月15日(月)6年家庭科の巻

この時期、どの教室も学期末のテストがよく行われています。この日の6年家庭科の授業は、次の時間の筆記テストに向けて、2学期に学習したことを広く復習する時間でした。音楽科や体育科等、いわゆる技能中心の教科でも、知識の理解度を筆記テストでみることは、今後中学校になってもますます比重が高くなっています。「書いて答える力」が必要です。

それにしても山本先生の黒板に字をたくさん書くスピードの速いこと！ そして子供たちもそれに必死で食らいつきノートにたくさんの問題を写し取っていきます。教室前面の黒板とホワイトボードには細かい字がびっちりと埋め尽くされました。

後半は、そのたくさんの問題に答えながら学習事項を押さえます。手提げ袋やカバーを作る際の注意点、冬を明るく暖かく過ごすための工夫点等々、順番に答え合わせをしていきました。目的に応じた素材選びや採寸、日光を上手く活用した住まい方、暖房器具の安全な使い方等が今回のポイントでした。

しっかり集中して復習したので次回のテスト本番が期待できそうです。



＜おまけのひとりごと＞これは名言と言えるのでしょうか。たし算1位の6年Yさんが、自分を上回る220点という久保先生の点数を知り、「ああ、久保先生のプレイを一度見てみたいです」と言っていました。まるでゲーム上級者の華麗な早業のようにすごいスピードで計算をこなしていく様子を想像して、憧れを抱いているかもしれません。Yさんが思わず口にしたその言葉、個人的にはすごく面白く感じました。それにしても上には上がいるものですね。それを知ることも大人への一歩かもしれません。